

子牛の疾病予防 ～野生動物が媒介する病気～

今冬、人間界では、新型コロナウイルスのほか、インフルエンザやアデノウイルス感染症など、様々な感染症の流行が話題となっており、手洗・消毒が励行されています。

牛も同じく、感染症の原因となる病原体の侵入を防ぐため、入場者（手指・靴・衣類）・車等の消毒が重要です。

また、以下のような病気では、野生動物による病原体の侵入・媒介が知られています。

野生動物への対策も実施しましょう！！

クロストリジウム感染症

子牛や育成牛の急死を引き起こすクロストリジウム症の原因菌として知られる、クロストリジウム・パーフリンゲンスは、**カラス**の腸管に含まれることが知られています。また、ボツリヌス菌も同じ仲間であり、カラスを介した感染が疑われたボツリヌス症の事例も報告されています。

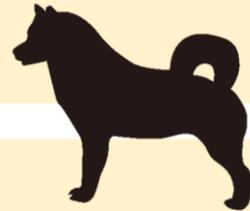


サルモネラ症

子牛のほか親牛にも激的な下痢を引き起こす本病の原因菌、サルモネラ菌は、**ネズミ**や**カラス等の鳥類**が保菌しています。

ネオスポラ症

ネオスポラという原虫に感染した牛に流死産を引き起こし、または虚弱な子牛が生まれる疾病です。感染している**犬**（無症状）の糞中に含まれ、それに汚染された飼料等を牛が口にすることで感染します。感染した牛は生涯異常産を起こす可能性があります。



疥癬症

主にウシシヨクヒヒゼンダニというダニが原因となり、皮膚炎（尾根部や後肢上部が好発部位）を引き起こします。痒みが強く、牛にとってストレスとなる疾病です。感染した**タヌキ**が牛舎に侵入し、牛への感染源となるケースがあります。

対 策

牛舎、エサ、飲水が野生動物に接触したり、その排せつ物に汚染されないよう対策しましょう。

具体的には、牛舎破損部の修繕、防鳥ネットの設置、ネズミの駆除、牛舎周辺的环境整備（整理整頓・除草）が大切です。また、飼い犬と牛の飼養場所（エサ置き場を含む）を明確に分離しましょう。

岩手県中央家畜保健衛生所
岩手県県南家畜保健衛生所
岩手県県北家畜保健衛生所

Tel:019-688-4111
Tel:0197-23-3531
Tel:0195-49-3006